

高原地域におけるリーフレタス・ホウレンソウの組み合わせによる連続栽培

農業研究センター 高原農業研究所

担当者：小野 誠

研究のねらい

収益性の高い軟弱野菜の作付け体系を確立するために、リーフレタスのセル成型苗を用いた連続生産システムについて検討するとともに、ホウレンソウとの組み合わせによる連続生産システムを検討した。

研究の成果

- 1 リーフレタスのセル成型苗を用いた連続生産は容易で、高原地域では周年栽培が可能である。
- 2 試験に用いた2品種「晩抽レッドファイヤー」・「グリーンウェーブ」は、生育・品質ともに優れ、長日期でも抽台の危険性が少ない。
- 3 播種量は、コート種子を用いた場合、1セル当たり1粒で問題はない。
- 4 栽植密度は、株間ともに条間20cmが適当で、これより粗植すると収量が低下し、密植すると軟腐病が発生しやすい。
- 5 緩効性肥料を使い、4作分の肥料を一度にまとめて施用しても、1作毎に施肥を行った場合と同等の収量が確保できる。
なお、緩効性肥料としては、CDUS555・LPSA・LPSE・LPSS100及び被覆硫酸加里140日タイプを用い、1a当たりN-8.9kg・K₂O-9.0kgを施用した。
- 6 以上の技術と、ホウレンソウの連続栽培技術を合わせることにより、リーフレタスとホウレンソウの組み合わせた連続栽培が可能である。

普及上の留意点

- 1 緩効性肥料の種類及び施肥量は、施肥時期によって調整する。
- 2 リーフレタス及びホウレンソウの組み合わせ方は、生産及び需要の動向を見極めて決定する。

表1 緩効性肥料の4作分1回施肥連続栽培が“晩抽レッドファイヤー”の収穫時の生育に与える影響
(4作平均、平成7年度)

試験区	株重 (g)	葉数 (枚)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	葉色 *
1作毎施肥(対照)	205	22	27.7	21.3	22.0
4作分1回施肥	207	22	27.9	21.7	21.9

*ミノルタ SPAD 値

表2 緩効性肥料の4作分1回施肥連続栽培が“グリーンウェーブ”の収穫時の生育に与える影響
(4作平均、平成7年度)

試験区	株重 (g)	葉数 (枚)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	葉色 *
1作毎施肥(対照)	216	21	28.6	21.6	26.1
4作分1回施肥	218	22	28.9	21.7	25.8

*ミノルタ SPAD 値

表3 栽植密度がリーフレタスの収量及び軟腐病の発生率に与える影響
(平成8年度)

試験区	収量 (a/kg)	軟腐病の発生率 (%)
株間15cm、条間15cm	487	25
株間15cm、条間20cm	432	15
株間20cm、条間20cm	391	0
株間20cm、条間25cm	321	0
株間25cm、条間25cm	274	0

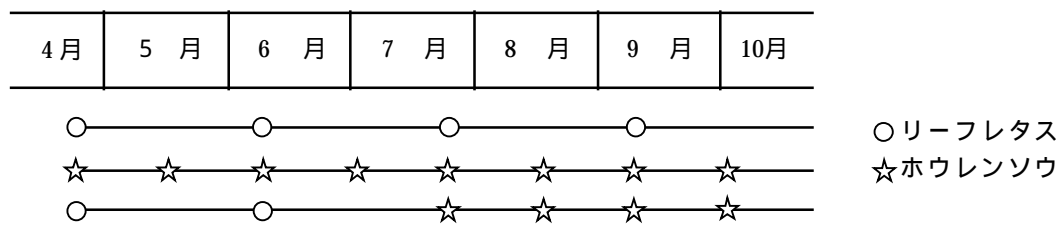


図1 リーフレタス、ハウレンソウの連続栽培及び組み合わせ例(移植日)